令和７年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
成果報告書
①（基礎データ・公演事業の実績値等）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人サントリー芸術財団
施設名	サントリーホール
内定額	26,112　（千円）

（1）令和7年度　助成対象事業一覧

※実績報告書様式13－2(2)事業内容 から転記してください。
　複数の事業類型（公演・人材・普及）が助成対象となっている場合は、それぞれすべて転記してください。

事業番号	事　　業　　名	実施日程	実施会場
公-01	サントリーホール チェンバーミュージック・ガーデン 2025	令和7年 6月7日～22日	サントリーホール ブルーローズ
公-02	サントリーホール サマーフェスティバル 2025	令和7年8月23、24、27、29、30日	サントリーホール 大ホール、ブルーローズ
公-03	サントリー音楽賞受賞記念コンサート（近藤 譲）	令和7年8月28 日	サントリーホール大ホール
人-01	サントリーホール オペラ・アカデミー（研修会、公演）	通年	サントリーホール リハーサル室、ほか
人-02	サントリーホール室内楽アカデミー（研修会、公演）	通年	サントリーホール リハーサル室、ほか
普-01	オープンハウス ～サントリーホールで遊ぼう！	令和7年4月6日	サントリーホール全館
普-02	サントリーアートキッズクラブ　いろいろドレドレ ―美術と音楽に親しむワークショップ＆コンサート―	令和7年7月25、26日	サントリーホール ブルーローズ
普-03	こどもオルガン研究所	令和7年8月7日	サントリーホール大ホール
普-04	ARK Hills Music Week 2025	令和7年10月3～12日	サントリーホール、アーク・カラヤン広場
普-05	伊集院光と行く！ 奥深～いオルガンの世界　トーク＆コンサート	令和7年5月29日、7月29日、11月27日、令和8年2月5日	サントリーホール 大ホール

（2）〔基礎データ〕

※　交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※　実施中止分を含まない実績値を記入してください。

【1. 事業本数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
年間事業本数（※1）	主催事業	42	42	43
	公演事業	20	20	19
	（内、本助成対象事業本数）	0	2	3
	人材養成事業	9	7	9
	（内、本助成対象事業本数）	0	2	2
	普及啓発事業	9	10	9
	（内、本助成対象事業本数）	0	5	5
	共生社会事業			
	（内、本助成対象事業本数）			
	その他　内容：　共催事業	4	5	6

※1　事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

【2. 貸館日数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
貸館日数	ホールごとの貸館日数	524	542	529
	ホール名：大ホール　座席数：2006	305	322	317
	ホール名：ブルーローズ（小ホール）　座席数：380～432	219	220	212
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			

【3. 施設利用者数（事業利用者数）・開館日数・利用可能日数・利用日数・利用率】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	81,912	93,684	97,005
	公演事業	30,185	29,439	30,605
	人材養成事業	2,625	1,834	2,406
	普及啓発事業	26,747	33,680	24,170
	共生社会事業			
	その他　内容：共催事業	22,355	28,731	39,824
	貸館事業入場者・参加者数	532,796	563,521	564,625
	その他　内容：記入してください	0	0	0
	計	614,708	657,205	661,630
開館日数		353	352	351
施設の利用可能日数（＝365－（保守点検日数+休館日数））		350	347	347
施設の利用日数		350	347	347
施設の利用率(%)（＝利用日数/利用可能日数）		100.0%	100.0%	100.0%

備考	

※2　実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。
劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者、事業関係者（出演者、指導者、スタッフ等）は除きます。
レジデントカンパニー・アーティストの稽古利用等の場合は「その他」に記入してください。

【4. 公演事業データ】

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	事業本数内訳						
					演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※3）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	38	70	59,557		38					
	共催・提携公演（※2）	4	19	22,355		4					
	貸館公演	524	524	532,796		524					
	計	566	613	614,708							
令和6年度	主催公演（※1）	37	66	64,953		37					
	共催・提携公演（※2）	5	22	28,731		5					
	貸館公演	542	542	563,521		542					
	計	584	630	657,205							
令和7年度	主催公演（※1）	37	59	57,181		37					
	共催・提携公演（※2）	6	34	39,824		6					
	貸館公演	530	530	564,625		530					
	計	573	623	661,630							

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

（3）各公演事業における実績値 及び 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標（値）・実績（値）

- 公演事業について、助成対象事業ごとに目標（値）と実績（値）を記入してください。
- 入場者数・入場者率（目標値）は**「交付申請書」**から転記してください。
- 有料入場者数・有料入場者率（目標値）および評価指標・目標（値）は**「評価補助シート」**から転記してください。

※有料入場者率（%）の計算方法＝**有料入場者数÷公演の設定席数（実績値）合計×100**

事業番号	事業名		入場者数	入場者率	評価指標	目標（値）	実績（値）
公-01	サントリーホール チェンバーミュージック・ガーデン 2025	目標値	5,372	86.9%	①聴衆の満足度	・アンケートの5段階評価で上位2段階（「とても満足」「満足」）の回答が90%以上 ・SNSでの感想や、接客スタッフが受ける当日または事後のVOC情報における高評価計14件	・来場者アンケート満足度：98% ・公演当日に接客スタッフが受けた高評価：3件 ・SNS（X）における高評価：42件
		実績値	5,070	82.0%	②専門家による批評掲載数およびその内容	掲載7本以上でおおむね高評価	批評10件すべて高評価 ・新聞2件（日経新聞夕刊7月3日付、朝日新聞7月3日付） ・専門誌3件（サラサーテ8月号、音楽現代9月号、音楽の友9月号） ・国内WEB4件（毎日クラシックナビ 6月12日・6月14日・6月17日・6月23日） ・海外WEB1件（bachtrack6月17日）
公-02	サントリーホール サマーフェスティバル 2025	目標値	2,778	67.4%	①聴衆の満足度	・アンケートの5段階評価で上位2段階（「とても満足」「満足」）の回答が80%以上 ・SNSでの感想や、接客スタッフが受ける当日または事後のVOC情報における高評価計8件	・来場者アンケート満足度：75% ・SNS（X）における高評価：47件
		実績値	2,303	55.8%	②専門家による批評掲載数およびその内容	掲載5本以上でおおむね高評価	批評10本すべておおむね高評価 ・新聞5件（朝日新聞夕刊9月4日付、読売新聞夕刊9月12日付、読売新聞オンライン9月19日付、共同通信＆福井新聞＆徳島新聞＆東奥日報9月12日付、山陰中央新報9月12日付） ・専門誌2件（音楽現代11月号、音楽現代1月号） ・国内WEB3件（Mercure des Arts9月15日付、ぶらあぼONLINE12月29日付記事2件）
公-03	サントリー音楽賞受賞記念コンサート（近藤 譲）	目標値	1,440	72.4%	①聴衆の満足度	・アンケートの5段階評価で上位2段階（「とても満足」「満足」）の回答が85%以上 ・SNSでの感想や、接客スタッフが受ける当日または事後のVOC情報における高評価計4件	・来場者アンケート満足度：50% ・公演当日に接客スタッフが受けた高評価：1件 ・SNS（X）における高評価：42件
		実績値	886	44.5%	②専門家による批評掲載数およびその内容	掲載3本以上でおおむね高評価	批評5本すべておおむね高評価 ・新聞2件（毎日新聞夕刊9月8日付、朝日新聞夕刊9月11日付） ・専門誌3件（モーストリークラシック11月号、音楽現代11月号、dance art スペシャル版vol.10 秋）

令和７年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

成果報告書

②（評価）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人サントリー芸術財団
施設名	サントリーホール
内定額	26,112　（千円）

（1）各公演事業の自己評価

「成果報告書①（基礎データ・公演事業の実績値等）」に記載の入場者率・評価指標・実績（値）等に言及しつつ、自己評価と自己評定（※1）を記入してください。

（※1）…S～D で記入してください。

※太枠内に記入してください

事業番号	事業名	自己評価
公-01	サントリーホール チェンバーミュージック・ガーデン 2025	入場者数および有料入場者数はわずかに目標に届かなかったものの、来場者アンケートの満足度は目標値を大きく上回る成果をあげた。批評数も目標を大きく上回り、専門誌 3 誌ではフェスティバル全体のレビューで高評価を得た。また、恒例企画「ベートーヴェン・サイクル」に出演したシューマン・クァルテットの公演は、ロンドンの世界的なクラシック音楽専門情報サイト backtrack でとりあげられ高評価（4 つ星）を獲得した。さらに、北村朋幹プロデュース『月に憑かれたピエロ』はその企画と演奏両面が高く認められ、単独で毎日クラシックナビ、朝日新聞、日経新聞に批評が掲載されたほか、『音楽の友』2026 年 2 月号「コンサート・ベストテン 2025」において室内楽では最高位となる第 10 位に選出された。
公-02	サントリーホール サマーフェスティバル 2025	入場者数は目標に届かなかったが、有料入場者数は目標を達成した。来場者アンケートの回答母数が非常に少なく、アンケートのみでは満足度を正しく測定できなかった。ただし、SNS での高評価の数は目標を大きく上回り、とりわけ芥川也寸志サントリー作曲賞における向井航の委嘱作品『クィーン』は、クィアをテーマとした社会的メッセージ性の強い舞台作品としての音楽的な完成度の高さから、非常に大きな反響があった。批評数も目標を上回り、テーマ作曲家ジョルジュ・アペルギスの公演は全 3 公演とも新聞評が掲載され、高評価を獲得した。さらに、『音楽の友』2026 年 2 月号において、3 公演すべてが音楽評論家・記者が選ぶ「コンサート・ベストテン 2025」にノミネートされた。
公-03	サントリー音楽賞受賞記念コンサート（近藤 譲）	集客に苦戦し、入場者数および有料入場者数は目標に届かなかった。上演に先立ち、日本を代表する数少ない世界的な作曲家・近藤譲氏の日常に迫るドキュメンタリー映画をブルーローズ（小ホール）で上映し、映画終了後には小沼純一氏によるアフタートークを開催することで、作曲家や作品への理解を深める機会を提供した。(公-02) 同様に来場者アンケートの回答母数が非常に少なく、アンケートのみでは満足度を正しく測定できなかったが、オペラを物語ではなく抒情的風景ととらえた、近藤譲氏ならではの世界観に満ちた舞台に対し、SNS 上では大きな反響があった。公演前には近藤氏との記者懇親会を実施し、新聞や音楽専門誌などで 10 紙以上取り上げられ、公演後の批評掲載数も目標を上回り、概ね高評価を獲得した。また、本公演も上述の「コンサート・ベストテン 2025」に 2 名の評論家によってノミネートされた。

※行が足りない場合は適宜追加してください。

（2）自己評価

評価項目①：創造性・企画性

（※1）…S～D で記入してください。

評価の観点	・（企画力）地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・（制作力）優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・（発信力・影響力）圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・（レジデントカンパニー・アーティスト）当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R 7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

	評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
公演事業	（発信力・影響力）ホール HP 内公演特集ページの PV 数	（公-01）CMG　6 万 PV 以上 （公-02）サマーフェスティバル　4 万 PV 以上	（公-01）CMG　67,593PV （公-02）サマーフェスティバル 38,527PV
	（発信力・影響力）公演事業における世界初演数と日本初演数	・世界初演数：2 作品（うちサントリーホール委嘱作 1 作品） ・日本初演数：3 作品（うちサントリーホール委嘱作 1 作品）	・世界初演数：2 作品（公-02：8/29 1 作品、8/30 1 作品 ※サントリーホール委嘱） ・日本初演数：4 作品（公-01：6/21 1 作品、公-02：8/29 2 作品 ※うち 1 作品はサントリーホール委嘱、公-03：1 作品）
	（発信力･影響力）(レジデントカンパニー･アーティスト)【助成対象事業外】当館が直接招聘する海外オーケストラおよびアーティストの国内他館での公演回数	・ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団（レジデント・アーティスト）：4 回 ・ウィーン・フォルクスオーパー交響楽団：4 回 ・内田光子ピアノ・リサイタル：2 回	・ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団（レジデント・アーティスト）：4 回（名古屋・大阪・姫路・横浜） ・ウィーン・フォルクスオーパー交響楽団：4 回（名古屋・大阪・枚方・びわ湖） ・内田光子ピアノ・リサイタル：2 回（京都、水戸）

人材養成事業	（発信力・影響力）（人-01）（人-02）サントリーホール アカデミー研修生・修了生の国内外での活躍実績	（人-01）オペラ・アカデミー　国内外のプロのオペラ・プロダクションやフェスティバル公演への出演、オーケストラ公演でのソリスト、コンクール入賞等	（人-01）主要オペラ公演でのキャスト出演 国内 9件、海外 4 件／国内主要コンクール入賞 1 件／国内プロ・オーケストラ主催公演へのソリスト出演 3 件（代役含む）／国内大手マネジメント新規所属 1 件
		（人-02）室内楽アカデミー　室内楽アンサンブルでの国内外のフェスティバル公演出演、国内外コンクール入賞、プロ・オーケストラ所属（個人）等	（人-02）国際コンクール入賞 1 件／国内室内楽コンクール入賞 2 件／室内楽団体としての受賞 3 件／プロ・オーケストラのコンサートマスター研究員 1 名就任 1 件
	（発信力・影響力）（人-01）（人-02）サントリーホール アカデミー研修生の研修に対する反応	研修生との面談等個別ヒアリングまたはインタビューで高評価を得る	（人-01）各研修生の修了時メッセージおよび継続受講・進級時の個人面談における高評価獲得／（人-02）研修生メッセージ（公式ホームページ掲載）での高評価獲得
	（発信力・影響力）（人-01）（人-02）サントリーホール アカデミーの研修生に対する指導陣からの評価	研修会レポートやファカルティ会議等で研修生の成長度合いや今後の課題を把握する	（人-01）出講ファカルティによる研修会レポートの内部共有、年 3 回のファカルティ会議開催／（人-02）CMG（公-01）フィナーレ公演出演に向けた選抜演奏会による選考結果
	（発信力・影響力）（人-01）（人-02）サントリーホール アカデミーの活動（研修および出演公演）に対する外部からの評価	有識者、各公演の主催者、協賛社から高評価を得る	（人-01）（人-02）協賛社店舗での出張演奏高評価に基づく継続出演依頼（年 2 回）
普及啓発事業	（発信力・影響力）全事業の参加者数	すべての普及啓発事業の総参加者数目標　30,000 名	（普-01～05）の総参加者数：36,499 名
	（発信力・影響力）新規来館者数	普及啓発事業全体で来場者平均 15%（アンケート回答より集計 ※普-04 をのぞく）	（普-01～03、普-05）の来場者平均 20.3%（アンケート回答より集計 ※普-05 はセット券が大多数のため 1 回目公演のみカウント）
	（発信力・影響力）参加者の満足度（※アンケートの5段階評価で上位 2 段階の回答率）と評価	普及啓発事業全体で満足度平均 85%以上＋自由意見での高評価	（普-01～05）の満足度平均 94.8%＋自由意見での高評価多数
共生社会事業			

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、事業類型ごとに太枠内に自己評価を記入してください。

公演事業	
自己評価	・(公-01)（公-02）特集ページの PV 数は総計では目標を達成、高い注目を集めたことが証明された。 ・計画通りに委嘱作品の世界初演を実施した。また、目標設定後の詳細調査により、(公-01）イスラエル・チェンバー・プロジェクト公演のプログラムにも日本初演曲が含まれることが判明した。 ・10 月に内田光子（当館アソシエイト・アーティスト)、11 月にウィーン・フィル、1 月にウィーン・フォルクスオーパーを招聘し日本ツアーを実施、いずれも良質な公演を全国各地に提供することができた。 ・(１）自己評価でも触れた通り、(公-01〜03）いずれも優れたアーティスト陣による高水準の公演は、聴衆および専門家から高く評価された。

人材養成事業	
自己評価	・令和 7 年度もサントリーホール アカデミー研修生・修了生の国内外における活躍が目立った。 （人-01）オペラ・アカデミー：現役研修生では、東山桃子（ソプラノ）が第 61 回日伊声楽コンコルソ第 3 位ならびに歌曲賞を受賞、さらに 2026 年夏のイタリア、ペーザロで開催のロッシーニ・オペラ・フェスティバル（ROF）アカデミア・ロッシニアーナへの参加メンバーに選出された。修了生では、迫田美帆が藤原歌劇団公演『ラ・トラヴィアータ』ヴィオレッタ役で新国立劇場デビューを果たしたほか、東京二期会オペラ劇場『カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師』(東京文化会館）において、土屋優子がサントゥッツァ役、中川郁文がネッダ役とそれぞれ主要な役で出演した。さらに、香港文化センターでのタン・ドゥン：オペラ『TEA』中国の皇子役（石井基幾)、コッチャ劇場『絹のはしご』ルチッラ役（大田原瑶)、若手歌手の登竜門である第 39 回マリア・カニーリア国際声楽コンクールファイナリスト（小寺彩音）など、海外でも成果をあげている。 （人-02）室内楽アカデミー：現役研修生のカルテット風雅が第 5 回宗次ホール弦楽四重奏コンクール第 1 位ならびにベートーヴェン オマージュ賞を受賞、さらに第 35 回青山音楽賞・バロックザール賞を受賞。同じく現役生のクァルテット・イーリスも同コンクールで第 3 位（２位なし）入賞を果たした。修了生では、クァルテット・インテグラがウィグモアホール国際弦楽四重奏コンクール 2025 第 3 位を受賞、さらに令和 7 年度（第 76 回）芸術選奨文部科学大臣新人賞、第 38 回ミュージック・ペンクラブ音楽賞〈室内楽・合唱部門〉の快挙を達成した。 ・両アカデミーの研修生たちからは、それぞれの成果披露公演に向けたメッセージを通じて、他の研修所では得難い本アカデミーならではの特徴（オペラ・アカデミー：「他人の歌を聴いて学ぶ」「発声・イタリア語の発音の基礎」「エグゼクティブ・ファカルティの世界的アーティストとしての経験談」／室内楽アカデミー：「室内楽を極めたファカルティ陣ならでの高度な研修内容」）が特に高く評価された。 ・両アカデミーともに優秀な研修生（団体）はファカルティの推薦を経て他の主催事業や外部公演に出演しており、その公演の内容が主催者に評価されて、次年度の継続依頼につながっている。

普及啓発事業	
自己評価	・総参加者数は目標値より 121.6%増加。来場者アンケートの結果からは、新規来館者の割合、聴衆満足度ともに目標を達成したといえる。中でも（普-05）「伊集院光と行く！奥深〜いオルガンの世界」は全 4 公演が完売し、長年の無料公演「オルガン プロムナード コンサート」からの大幅リニューアルに成功した。 ・【助成対象外事業】3 年ぶりに開催した 5 月の「こども音楽フェスティバル 2025（共催：ソニー音楽財団）では、あらゆる世代のこどもを対象とした全 14 公演を開催しホール内外で 4 日間 33,000 名を動員、様々なインクルーシブの取り組みに加え、有料・無料の配信も行い、次世代やファミリー層に向けたクラシック音楽の普及に大きく貢献した。

共生社会事業	
自己評価	

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目②：国際性（任意）

評価の観点	・（国際プレゼンスの向上）海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・（国際交流）アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・（新たな創客への取組）在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	（海外・訪日外国人向け PR）国内のみならず海外に向けて情報発信を行っている。

（※2）…R 7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
（国際プレゼンスの向上／国際交流）主催事業における外国人出演者･作曲家・指導者の人数	助成対象外事業を含めすべての主催事業で 290 名(海外オーケストラ 3 団体含む)※うち助成対象事業全体では 22 名	助成対象外事業を含めすべての主催事業で 271 名(海外オーケストラ 3 団体含む)※うち助成対象事業全体では 19 名（イスラエルからの来日不可 3 名減）
（新たな創客への取組）インバウンドサイトからのチケット購入	令和 7 年度全体（主催・他催含む）で 5,000 枚（前年比約 102%） （公-01）CMG：8 か国 60 枚 （公-02）サマーフェスティバル：10 か国 70 枚	令和 7 年度全体（主催・他催含む）で 43 か国 5,510 枚（前年比 112.3%） （公-01）CMG：12 か国 71 枚 （公-02）サマーフェスティバル：12 か国 46 枚
（海外・訪日外国人向け PR）主催事業の海外向け英文リリース発信	助成対象事業全体で 4 件､助成対象外事業を含め 9 件	助成対象事業全体で 4 件（公-01～03 ※公-01 で 2 件)、助成対象外事業を含め 10 件
（海外・訪日外国人向け PR）主催事業の英語版 SNS（Facebook、X）投稿	助成対象事業全体で 80 件、助成対象外事業を含め主催全体 130 件	助成対象事業全体で 97 件（X：52 件、Facebook：45 件)、助成対象外事業を含め主催全体 169 件（X：90 件、Facebook：79 件）

（※3）･（※4）…R 7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	271 名の外国人アーティストが主催事業に出演あるいは指導で関わった。うち当館が直接招聘した人数は 207 名（オーケストラなどの演奏団体含む）にもおよび、外国人アーティストと直接密なコミュニケーションがとれた。海外・訪日外国人向け PR も積極的に展開しており、英語版 SNS（X、Facebook）の投稿数および主催事業の英文リリース発信件数は目標を達成、インバウンドサイトでのさらなる購入増に貢献したほか、海外の批評サイト Backtrack での（公-01）公演評掲載につながった。また、当館が会員となっている AAPPAC（アジア太平洋パフォーミングアーツセンター連盟）の 20 か国 76 団体の会員向けニュースレター（年 4 回）における告知にも、この英文リリースを活用している。

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目③：地域文化拠点機能

評価の観点	・（文化拠点）地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・（地域連携）地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・（児童生徒への機会提供）次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。	
	・ホール利用サービス（貸館事業）の向上（任意）（※２）	今年度も引き続き多彩な主催者にホールを利用いただく。
	・自由設定の観点（任意）（※３）	（防災）港区との災害協定に基づいた民間一時滞在施設として、有事に備えお客様の安全安心を守るための研修・訓練を定期的に行っている。

（※２）・（※３）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※４）	目標（値）（※５）	実績（値）
（文化拠点／地域連携）（人-01）（人-02）サントリーホール アカデミー研修生・修了生の地域イベント出演とその評価	（普-01）オープンハウス、麻布台ヒルズ内 BMW 社主催コンサート、協賛企業ショールームでのコンサート、赤坂区民ホール主催事業、東京文化会館主催アフタヌーン・コンサート等への出演により、お客様アンケートや SNS 等で高い評価を得る	左記に記載した東京都内での全公演および（普-04）ARK Hills Music Week でのロビーコンサートや都内 2 か所のシニアレジデンスでの公演に出演し、お客様アンケートをとっているものについてはいずれも満足度 90%超と高い評価を得た
（地域連携）（普-04）ARK Hills Music Week における地域の参画団体数とイベント全体の参加者数	地域（港区赤坂アークヒルズ周辺エリア）の参画団体数 15 団体、イベント全体の参加者数 18,000 名（前年同規模）	地域（港区赤坂アークヒルズ周辺エリア）の参画団体数 15 団体、イベント全体の参加者数 18,486 名
（子どもへの機会提供） 鑑賞と体験を組み合わせた子ども対象事業（有料公演）の券売率	（普-02）いろいろドレドレ：90%以上 （普-03）こどもオルガン研究所：70%以上	（普-02）いろいろドレドレ：88.7% （普-03）こどもオルガン研究所：27.8%
（子どもへの機会提供） 【助成対象事業外】あらゆる世代の子どもを対象したフェスティバル「こども音楽フェスティバル 2025」（共催）でのこども（0～19 歳）の有料公演来場者数	4 日間計 6,000 名（大ホール 8 公演、ブルーローズ 6 公演 計 14 公演）	4 日間計 6,462 名（大ホール 8 公演、ブルーローズ 6 公演 計 14 公演 購入者のみ、招待者をのぞく）
（ホール利用サービスの向上）前年度稼働率※・公演数の維持 ※稼働率（貸出件数÷営業可能日数）	大ホール稼働率 110%　369 公演 ブルーローズ稼働率 98%　262 公演	大ホール稼働率 109%　363 公演 ブルーローズ稼働率 95%　260 公演

（防災）職員および協力会社スタッフを対象とした普通救命講習の実施	職員の受講率 100%維持、協力会社スタッフの受講率 90%以上	職員の受講率 100%維持、協力会社スタッフの受講率 83%（当日体調不良による欠席あり）
（防災）定期的な自衛消防訓練（震災対策を考慮した避難訓練）の実施	年 2 回の継続実施、職員および協力会社スタッフの参加人数 1 回あたり 90 名以上	年 2 回（9 月、2 月）実施 9 月参加人数：100 名 2 月参加人数：120 名

（※４）・（※５）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	・(人-01)(人-02)サントリーホール アカデミーに対し、都内で行われる地域イベントへの出演依頼は年々増加しており、いずれもその演奏クオリティの高さと制作スタッフの対応に主催者からも高い評価を受け、次年度の継続依頼につながっている。また、(人-02) 室内楽アカデミーは毎年「とやま音楽フェスティバル」に参加しており、富山県内各地のホール内公演のみならず、令和 7 年度は地域交流イベントや学校アウトリーチ 2 公演（うち 1 公演は、特別支援学校向け）を行い、音楽による地域振興の一翼を担った。 ・次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業も積極的に展開しており、(普-02)（普-03）のほか、年 4 回の「こども定期演奏会」(共催：東京交響楽団）や 4 日間に渡る「こども音楽フェスティバル 2025」（共催：ソニー音楽財団）を実施、ホール内の有料主催事業だけでも年間約 1 万名の子どもを迎えた。 ・当館は安定して高い稼働率を誇る一方で、防災への取り組みも精力的に行っており、普通救命講習や自衛消防訓練は継続実施している。お客様の救急対応が必要なケースは年々増加しているが、案内係を中心に各セクションのスタッフが連携することで常に迅速で適切な措置がなされており、後日お客様から感謝の声をいただくことも多い。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目④：多様性とアクセシビリティ

評価の観点	・（プログラムの多様さ）プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・（参画者の多様さ）アーティストやスタッフとして参画する人々の属性（性別、年代、居住地、他）が多様である。 ・（アクセシビリティ）障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R 7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
（プログラムの多様さ／参画者の多様さ）継続した複数日程で開催するフェスティバル事業におけるコンテンツ数と参画者数、その属性の幅広さ	（公-01）CMG　コンテンツ数：19 公演（16 日間）、参画者数と属性：10～20 代の室内楽アカデミー研修生（人-02）26 名から 30～50 代の中堅、60～80 代の巨匠まで、外国人 14 名を含む総勢 67 名が出演 （公-02）サマーフェスティバル　コンテンツ数：6 公演（5 日間）、参画人数と属性：20 代の若手作曲家・演奏家から、30～60 代の中堅作曲家・演奏家、70 代の指揮者、2025 年で 80 歳となる重鎮作曲家まで、外国人 6 名を含む総勢 28 名の作曲家・演奏家と国内オーケストラ 2 団体が参画 （普-04）ARK Hills Music Week　コンテンツ数：約 100 プログラム（10 日間）、参画人数と属性：オフィスビル、レストラン、ホテル、大使館、美術館、科学館、楽器メーカー、音楽事務所、舞台運営会社など多様な業種のスタッフ総勢 100 名以上が参画	（公-01）CMG　コンテンツ数：19 公演（16 日間）、参画者数と属性：10～20 代の室内楽アカデミー研修生（人-02）26 名から 30～50 代の中堅、60～80 代の巨匠まで、外国人 11 名を含む総勢 65 名が出演 （公-02）サマーフェスティバル　コンテンツ数：6 公演（5 日間）、参画人数と属性：20 代の若手作曲家・演奏家から、30～60 代の中堅作曲家・演奏家、70 代の指揮者、2025 年で 80 歳となる重鎮作曲家まで、外国人 6 名を含む総勢 32 名の作曲家・演奏家と国内オーケストラ 2 団体が参画。現代音楽に特化した声楽の公開マスタークラスを初開催 （普-04）ARK Hills Music Week　コンテンツ数：101 プログラム（10 日間）、参画人数と属性：オフィスビル、レストラン、ホテル、大使館、美術館、科学館、楽器メーカー、音楽事務所、舞台運営会社など多様な業種のスタッフ総勢 100 名以上が参画

（アクセシビリティ）(公-01) チェンバーミュージック･ガーデン CMG スペシャルへの都立特別支援学校生徒（肢体不自由または知的障がいの児童･生徒）受入の対応状況と参加者の評価	近隣施設の協力・理解のもと、開場時に合わせ複数台のバスや介護タクシーで来場する特別支援学校の生徒たちを同時に受入れ、車椅子やストレッチャーの利用者について、おむつ替えやお手洗い対応など学校側の要請に応じ必要な対応が十分にできる。また、公演内容や受入対応について、参加者（引率の先生や保護者）から高い評価を得る。	近隣施設の協力・理解のもと、開場時に合わせ様々なサイズのバス計 10 台と自家用車 1 台で来場する特別支援学校 3 校の児童・生徒 74 名（引率者込計 126 名）を同時に受入れ、車椅子やストレッチャーの利用者について、おむつ替えやお手洗い対応など学校側の要請に応じ必要な対応が十分にできた。また、公演内容や受入対応について、参加者（引率の先生）から前年度に引き続き高い評価を得た。
（アクセシビリティ）0 才から誰もが無料で参加できるイベントの参加者数と参加者満足度（※アンケートの 5 段階評価で上位 2 段階の回答率）	（普-01）オープンハウス：10,000 名、満足度 85%以上 （普-04）ARK Hills Music Week　カラヤン広場でのライブ･ビューイングおよびミュージック・マルシェ：計 4,500 名、満足度 90%以上 【助成対象外事業】こども音楽フェスティバル 2025：カラヤン広場無料イベント：15,000 名（4 日間）、満足度 85%以上	（普-01）オープンハウス：11,214 名、満足度 87.5% （普-04）ARK Hills Music Week　カラヤン広場でのライブ･ビューイングおよびミュージック・マルシェ：計 4,844 名、満足度 96.7% 【助成対象外事業】こども音楽フェスティバル 2025：カラヤン広場無料イベント：17,300 名（4 日間）、満足度 93.4%
（アクセシビリティ）【助成対象事業外】こども音楽フェスティバルでのインクルーシブ対応	・聴覚支援ツールの導入と聴覚不自由なこどもの招待：30 組 60 名 ・視覚支援ツールとして全公演の配布プログラムに音声コード Uni-Voice の導入実施 ・格差解消に向けた機会提供（活動団体を通じた公演招待）：18 組 36 名	・聴覚支援ツールの導入と聴覚不自由なこどもの招待：延べ 29 組 68 名 ・視覚支援ツールとして全 14 公演の配布プログラムに音声コード Uni-Voice の導入実施 ・格差解消に向けた機会提供（活動団体を通じた公演招待）：17 組 34 名
（アクセシビリティ）インバウンドサイトからのチケット購入	令和 7 年度全体（主催・他催含む）で 5,000 枚（前年比約 102%） （公-01）CMG：8 か国 60 枚 （公-02）サマーフェスティバル：10 か国 70 枚	令和 7 年度全体（主催・他催含む）で 43 か国 5,510 枚（前年比 112.3%） （公-01）CMG：12 か国 71 枚 （公-02）サマーフェスティバル：12 か国 46 枚

（※3）･（※4）…R 7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	・複数日程に渡るフェスティバル型の事業（公-01、公-02、普-04、【助成対象外】こども音楽フェスティバル）では、計画通りに幅広い属性、年代のアーティストやスタッフが参画し、多様なプログラムを提供できた。とりわけ、（普-04）の ARK Hills Music Week では、音楽業界外からも多様な業種の人々が関わり、街をあげて地域の音楽祭を盛り上げるべくネットワークを構築できている。 ・アクセシビリティの観点では、令和 7 年度も（公-01）内で肢体不自由または知的障がいを持つ都立特別支援学校生徒のための公演を継続実施し、引率教員からは「真剣に聞き入っている様子を見ることができ、私たちにも新しい発見でした。音楽の力を改めて感じました」「普段は賑やかな生徒が静かに聞いている姿に驚きました」といった感想をいただいた。さらに、3 年ぶりに開催した「こども音楽フェスティバル 2025」（共催：ソニー音楽財団）では、インクルーシブ対応を強化し、聴覚支援ツール、視覚支援ツールを導入したほか、格差解消に向け活動団体を通じた児童・生徒招待を実施した。 ・公式ホームページでは貸し公演含めた全公演について英語ページを作成しており、ほぼすべての主催公演および大ホールの主要な貸館公演ではインバウンドサイトを作成している。そのサイトからの年間購入数は目標の 110.2%と 2 年連続で上回る結果となり、外国人客のアクセシビリティの高さを証明できた。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目⑤：自由設定（任意）

評価の観点	①　創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性　の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。（※2）
	（価値観の内部共有）サントリーホールのミッション・ビジョンの実現に向けて、ホールの持続的な価値構築ならびに今後の事業計画・運営のよりどころや指針となるべく新たに制定した「サントリーホールの理念」（令和 5 年度制定）をすべての職員および協力会社スタッフと共有している。

（※2）…R 7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
新たに迎え入れた職員・協力会社スタッフへ「理念」を記した小冊子の配布とレクチャー実施	全職員・協力会社スタッフの小冊子配布率 100%維持および全体会議（年 1 回）内でのリマインド	・全職員・協力会社スタッフの小冊子配布率 100% ・年度初めに理念に基づく各自の行動目標設定（小冊子への各自記入） ・全体会議（年 1 回）内での概要説明実施 ・新規採用職員および設置者からの新規出向者への理念レクチャー実施

（※3）・（※4）…R 7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	財団及び協力会社の年度活動計画において、理念をベースとした活動プランが立案されており、理念の浸透、実践への貢献が確認できている。ホール勤務の全職員・協力会社スタッフは総勢 300 名を超える大所帯だが、理念はすべての考動の指針となり、社会における使命や大切にすべき価値観を明らかにして、未来に向けた新たな取り組みに活かされている。

（2）自己評価

その他：エピソードやグッドプラクティス事例について

助成対象事業に関連して、心に響くような印象的な出来事や、他館の参考になるような好事例があれば、具体的にご記入ください。

■（公-01）チェンバーミュージック・ガーデン（CMG）

・イスラエル・チェンバー・プロジェクト公演の開催：国際情勢の悪化により、招聘グループの 6 名中 3 名がイスラエルから渡航ができなくなり、公演 1 週間前に当初予定していた出演者・曲目の変更を余儀なくされた。プログラムはできる限り当初の内容を踏襲しつつ、来日できなかったイスラエルのメンバーからプログラムの代案をいただき、それにあわせた国内一流の奏者を急遽手配することで、困難な状況下でも中止することなく 2 公演を開催した。

・北村朋幹プロデュース『月に憑かれたピエロ』公演の高評価：2026 年 2 月号掲載の『音楽の友』年間ベストテンにおいて、室内楽部門の最高位となる票を獲得。CMG で同作品を取り上げるのは、24 年の小菅優氏に引き続き 2 年連続ではあったが、技術・解釈の上で難しさを極める作品に対して高い評価を受けられることは、室内楽の分野が成熟してきた証でもある。詩的イメージに基づきレパートリーを横断する北村朋幹氏の構成力も高く支持された。

■（人-01・02）サントリーホール アカデミー

・（人-01）オペラ・アカデミー：令和 7 年 10 月開講のプリマヴェーラ・コース第 8 期生募集にあたり、世代交代のためコーチング・ファカルティの指導体制を変更、新たに国内外で活躍中の修了生、迫田美帆（ソプラノ）と石井基幾（テノール）の 2 名をアシスタント・ファカルティに起用した。本アカデミーのメソッドを自らが長年かけて会得し熟知している修了生が基礎テクニックを指導することで、現役研修生のメソッドに対する理解が深まると同時に、彼らにとってはより身近なロールモデルの存在ができた。さらに、イタリア留学経験を持つ修了生の木和田絢香（ソプラノ）がアシスタントとして研修生を技術面、精神面でサポートし、彼らのよいメンターとなっている。この体制変更は、14 年かけて息の長い育成事業を継続して展開・発展させてきた一つの大きな成果といえる。

・（人-02）室内楽アカデミー：前述の「創造性・企画性」の項でも触れた通り、令和 7 年度も現役研修生、修了生が目覚ましい成果をあげ、若手有力団体の輩出拠点としての存在感が増している。室内楽アカデミー全体を俯瞰すると、ジャパン・ナショナル・オーケストラ、ARK シンフォニエッタ、国際音楽祭 NIPPON フェスティバル・オーケストラ、東京文化会館チェンバー・オーケストラなど、若手演奏家が集まるアンサンブルには、必ず室内楽アカデミーの修了生または現役生が参加している。さらに、これまでの修了生全 139 名のうち、40 名以上が国内外のプロ・オーケストラ奏者として活動しており、本アカデミーの出身団体・修了生が日本の室内楽・オーケストラ界を幅広く牽引しているといえる。修了団体を含め、松尾学術振興財団の助成を 10 年以上継続して受けていることも特筆される。

■（普-05）伊集院光と行く！奥深〜いオルガンの世界

・当館は 33 年間に渡り、月 1 回平日昼間のオルガン無料公演「オルガン プロムナード コンサート」を開催し、コンサートホールでオルガンを聴くという日本における新しい文化の導入・定着を図るべく、気軽に無料で体験できるというベネフィットを提供してきた。港区在住・在勤者やアクティブシニア層を中心に多くの方に親しまれてきた一方、この種のオルガン活用法が他ホールへも浸透したことにより、「オルガン＝安価・気軽」という見せ方と実績が全国各地に普及した。そのため適正な対価を払ってオルガンの本格的な公演を聴こうという客層の獲得には至らず、本来は高度な演奏技能・複雑な機械構造を有する楽器であるオルガンの魅力を伝えきれていないという課題感があった。そこで、従来の客層が引き続き平日のランチライムに短時間で上質なオルガン演奏を堪能できる点は継続しつつ、「MC とオルガニストのトーク」という付加価値を足すことで、有料公演として大幅リニューアルを実施した。回ごとにテーマを設け、多種多様で個性豊かな日本人トップ・オルガニストが楽器の魅力を自分なりの目線でプレゼンテーションし、その独自の世界を MC がエンターテイメント性の高い話術で深掘りしていくことで「オルガンの本格的な公演に行ってみたい」と思うお客様が増えることを狙いとしている。長年の無料企画終了を惜しむ声もあったが、リニューアル後の本公演は全 4 回とも早期に完売、来場者アンケートも満足度平均 90%を獲得し、リニューアルを成功させることができた。このような動きが全国的に新たに定着すれば、オルガン業界全体の活性化も期待される。

（2）自己評価

評価項目⑥：運営体制と持続可能性

（※1）・（※2）…R7年度評価補助シートから転記すること。
※太枠内に記入してください

○「実現性」の項目より〈(ア）～（エ)〉

評価の観点	（ア）多様な財源の確保 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	（イ）広報・営業力 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。
現状（※1）	アーツカウンシル東京やローム ミュージック ファンデーションなどの公的助成金ほか、民間企業からの協賛金も複数獲得している。	広報担当部署と連携し公演ごとにPR会議を設定、券売促進に向け公演の特徴に合わせた効果的なPRを展開している。
目標(値)（※2）		
実績(値)	（公-01）ローム ミュージック ファンデーション （公-02）アーツカウンシル東京 （人-01）（人-02）企業協賛2社 助成対象外事業での企業協賛2社	・年間を通して公演ごとのPR展開を実施 ・年間の主催・共催事業の入場者率：前年比0.7ポイント増加 ・会員数：前年比9ポイント増加
団体の自己評価	近年は継続して各種の公的助成金や民間企業からの協賛金を複数獲得でき、多様な財源を確保できている。	事業担当部署と広報担当部署、チケット販売担当部署が密に連携し、継続して効果的な券売や集客に努めている。

評価の観点	（ウ）他館連携 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	（エ）設置者 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。
現状（※1）	今年度は当ホール招聘の一流音楽家による公演を全国各地の劇場・音楽堂で 10 館展開予定。さらに、秋田総合生活文化会館、サラマンカホール（岐阜）などとの共同招聘・企画を通じ、費用負担の分散を図る。	設置者からの出向者を迎えることで、設置者の意志をより綿密に反映できる組織体制を整えており、特に CSR 推進部とは、予実の把握をより強化すべく、期中で定期的に報告・協議する場を設けている。
目標(値)（※2）		
実績(値)	・内田光子リサイタル：2 館（京都、水戸） ・ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団：4 館（名古屋・大阪・枚方・びわ湖） ・ウィーン・フォルクスオーパー交響楽団：4 館（名古屋・大阪・姫路・横浜） ・(公-01) での秋田総合生活文化会館、サラマンカホール（岐阜）との共同招聘・企画実施	継続中 ※設置者からの財団出向者：9 名（～8 月）→7 名（9 月～）
団体の自己評価	いずれも計画通り実施でき、他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて効果的で効率的な事業運営を行った。	設置者とは適切に意思疎通を図っており、設置者の意志をより綿密に反映できる組織体制を整え、人材や財源の確保に努めている。

○「持続可能性に関するチェックシート」より〈(オ) ～ (セ)〉

評価の観点	（オ）芸術監督 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	（カ）長期的経営 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。
現状（※1）	世界的チェリストで令和 6 年度文化勲章受章者の堤剛が 2009 年より館長および当財団代表理事に就任、長年に渡り当ホールの芸術面を統括している。	設置者からの出向者が総支配人として着任し、同じく設置者からの出向者である財団専務理事と密に連携をとりながら経営実務にあたっている。
目標(値)（※2）		
実績(値)	継続中	令和 7 年 4 月に 6 年ぶりに総支配人交代
団体の自己評価	令和 7 年度も劇場運営の芸術面を統括する適切な人材が配置された。	当該年度初めに設置者からの出向者が新たに総支配人として着任（任期なし）、前任者からの引継ぎのもと長期的視点での経営実務にあたっている。

評価の観点	（キ）専門人材の確保 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	（ク）職制の整理 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。
現状（※1）	専門性の高い担当部署においては、2〜3 年に 1 名の新卒（主に音楽大学の出身者）や業界内のキャリア採用を行っている。また、舞台や防災面での専門人材を確保している。	財団職員に対しては 4 段階の資格・等級制度を定めており、年 3 回の面接をもとに考課を行い、各自のキャリアに応じた役割分担を行っている。
目標(値)（※2）		
実績(値)	・業界内のキャリア採用：2 名実施（次世代推進部 1 名、企画制作部 1 名） ・舞台および防災面の専門人材確保：継続中	継続中。なお、9 月の組織改編により、2 名が部長に、2 名が副部長に昇進した。
団体の自己評価	9 月の組織改編に伴い、昨年度に引き続きキャリア採用を実施、専門人材の確保や育成に努めている。	管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、各自のキャリアに応じた役割分担が適切になされている。また、各職員の将来を見据えたキャリアアップ面談も実施した。

評価の観点	（ケ）世代間バランス 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている（若年層の雇用に努めている）。	（コ）ジェンダーバランス 女性管理職比率が 30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。
現状（※1）	年齢バランスを考慮した人材確保を行っており、令和 6 年度には、20 代 1 名、30 代 1 名、40 代 1 名のキャリア採用を実施した。	管理職 9 名中、女性管理職は 5 名（55%超）と高比率であり、経営責任者である総支配人も女性が務めている。
目標(値)（※2）		
実績(値)	令和 7 年度は 30 代前半 2 名のキャリア採用を実施	9 月の組織改編後、管理職 9 名中の女性管理職は 4 名（約 44%）
団体の自己評価	継続して若年層の雇用に努め、年齢バランスを考慮した人材確保を行っている。	4 月からの新総支配人も引き続き女性が務めており、9 月の組織改編後も女性管理職比率は 30%を超え、ジェンダーバランスに配慮している。

評価の観点	（サ）ワークライフ・バランス 仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	（シ）コンプライアンス順守 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。
現状（※1）	財団内で育児・介護等の支援制度を整備・推進しており、昨年度は男性初の育児休暇取得者を輩出した。	設置者に準じ、情報セキュリティ、サステナビリティ（人権）、防災・減災など各種ｅラーニングの受講を全職員に義務化している。また、設置者策定の「サントリーグループ企業倫理綱領」が小冊子として財団全職員に配布され、それをもとに定期的に職場ディスカッションを実施している。
目標(値)（※2）		
実績(値)	令和 7 年度の育児／介護休暇取得者はいないが、育児・介護に支障を生じないよう、こまめな半休・時間休の取得を職場全体として推進している。	継続中
団体の自己評価	財団内で育児・介護等の支援制度を整備・推進しており、職員のワークライフ・バランスに配慮している。	設置者に準じ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、年間を通して必要な研修を行っている。

評価の観点	（ス）ハラスメント防止対策 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	（セ）適正な契約事務 アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。
現状（※1）	設置者が策定した「サントリーグループ共通行動指針」の中で各種ハラスメント防止のための指針が明記されており、専門部署（コンプライアンス推進部）が社内イントラや社内メールを通じて周知に努めている。	すべての主催事業において出演者と適正な契約書を交わしている。また、共催者などの関係先とも覚書あるいは契約書を締結している。
目標(値)（※2）		
実績(値)	継続中	継続中 すべての契約手続きにワークフローシステムを採用、紙捺印でも適正なルートで電子承認・決裁されたものを原本およびクラウドで保管している。
団体の自己評価	設置者が策定した指針について周知につとめ、定期的に必要な研修を行っている。	すべての主催事業において出演者と適正な契約書を交わし、適切に保管している。また、共催者などの関係先とも覚書あるいは契約書を締結し、適切に保管している。

（3）総評

※太枠内に記入してください。

団体の自己評価
当館が掲げる 2 つのミッション（「生活の中の楽しみとして音楽を根づかせ、人々がより豊かな人生を送ることに貢献する」「音楽文化の継承と発展に貢献する」）とビジョン（「世界最高峰のホールとして、音楽文化を牽引する存在となる」）、さらに当ホールの持続的な価値構築ならびに今後の事業計画・運営のよりどころや指針となるべく新たに制定した理念（「サントリーホールは、音楽の力で人の生命が輝く瞬間をつくる」）に基づき、令和 7 年度を含む中期計画で掲げた 3 つの活動方針に沿うかたちでほぼ計画通りに自主事業を展開し、その全てにおいて設定した目標を概ね達成することができた。 **活動方針１.「コンサートを楽しむ文化」を最高の形にして社会に提供する：公演事業** 令和 7 年度は共催事業を含め 23 事業 48 企画の公演事業を実施した。（公-01）国内最大規模の室内楽フェスティバルや（公-02）現代音楽の祭典、（普-04）ARK Hills Music Week の一つである「サントリーホール ARK クラシックス」（全 11 公演）、助成対象外事業のウィーン・フィル来日公演といった大型主催事業を中心に、いずれも独創的で質の高い主催事業を展開し、公演内容は前述の通り聴衆および専門家から高く評価された。全公演事業の平均入場者率は 88%と非常に高いものであった。 **活動方針２．音楽文化の次なる担い手を育てる：人材養成事業／普及啓発事業** 【人材養成事業】（人-01・02）サントリーホール アカデミーは、前述の通りオペラ、室内楽それぞれの分野において、令和 7 年度も現役研修生や修了生が目覚ましい成果を上げた。公演事業や普及啓発事業への出演機会を積極的に創出し、人材養成事業単独ではなく、有機的に連関させているのも当館ならではの大きな特徴である。9 月に音楽家や聴衆の育成をより強化するための専門部署「次世代推進部」を新設したことで、今後はよりいっそう両アカデミーのプレゼンス向上に努めていく。 【普及啓発事業】オルガンや当財団所属の美術館など、当館ならではの資源を活かした多彩な普及啓発事業全体の参加者数は 36,499 名と目標値より 121.6%増加し、その中で新規来館者も一定の割合で獲得できたため、事業ごとにばらつきはあったものの、全体としては一定の成果を上げたといえる。未就学児が多く来場する事業では、おむつ替え可能な化粧室の掲示や仮設授乳スペース、ベビーカー置場の確保、子どもが参加しやすい会場レイアウトなどアクセシビリティに配慮した。なかでも、0 歳から青少年まであらゆる世代の子どもを対象とし、4 日間でホール内外計 33,000 名を動員した「こども音楽フェスティバル 2025」（共催：ソニー音楽財団）では同様のアクセシビリティ対応に加えインクルーシブ対応を強化し、聴覚支援ツール、視覚支援ツールを導入したほか、格差解消に向け活動団体を通じた児童・生徒招待を実施、あらゆる子どもが参加できるように配慮した。 **活動方針３．ホールの発展を支える「基盤」を強化する：運営体制と持続可能性** 当館のビジョンの実現に向けてサステナブルに価値を生み出し続けるためには、事業の基盤となる「収益力」「人・組織」の安定化・強化は欠かせない。そのため、館全体で長期的視点をもって重点的に取り組んでおり、令和 7 年度の活動においては求められる項目をすべてクリアしたといえる。「収益力」では安定した貸館運営に加え、自主事業の開催に際しては各種協賛金、助成金などの外部資金を継続獲得する一方で、入場料収入増に向けた各種 PR 施策など地道な収支改善に努めた。「人・組織」の安定化・強化にあたっては、9 月に大規模な組織改編を行い「次世代推進部」を新設したほか、ホール内業務の習熟・向上の促進としてプロパー職員の部署異動を行い、経験者採用も実施した。また、部署を横断したプロジェクトチームでの活動を積極的に推進している。 以上のことから、３つの活動方針に基づいた当館の事業について戦略的に実施し、その全てにおいて設定した目標を概ね達成したと自己評価する。

備考